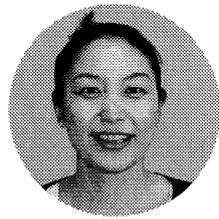


# 異文化と心通わせ

つくば通信 ④

村田 佳子



つくば市から車で1時間ほどの成田山、新勝寺

間ほどの成田山、新勝寺を観光したときのことです。その日はお寺の任職をはじめ、近隣住民も総出で消防訓練が行われていました。お参りを終えから、訓練の邪魔にならないよう休憩所で様子を見ていたところ、同じく休憩所にいた年配の女性が私に手招きをしていました。少し前にお寺の中で出会ったおばあちゃんでした。よく見ると友人と思われる女性と一緒に何かをほお張っている

笑顔を「ごちそうさまで、誘われるまま一緒に腰掛けてみました。よく見ると、笑ったおばあちゃんたちの歯も口元も黄色くなっていました。ほお張っていたのは、ゆで卵。バックの中からおばあちゃんが「もうあったかぐへ温かくなっちゃったね」と言いながら出したのは、なんとホットバナナだったのです。かばんの中で軽々漬れ、初夏の日差しで温かくなっ



## 黄色いファストフード

たバナナに抵抗があったのでいたたかどろか迷ったのですが、一瞬にして皮をむき、さしだしてくれたのでいたたかどろにしました。おばあちゃんたちは「家まで電車とバス(歩き)で2時間かかっから(かかると腹(ハハハ)と黄色くなつた歯茎を出して笑いました。ある食品メーカーが出したゼリーのコマージュルでは10秒チャージ、2時間キープなんていうフレーズがはやりまして、すぐに食べられおなかにもつ食べ物は昔からあったのだなあと思われました。私はその元気なおばあちゃんたちの後の姿を見ながら時代とファストフードに

ついて考えました。今の私たちの心配になる気持ちも分かります。果物以外にもポケットにクルミやピーナッツ、ピスタチオを忍ばせて手のひらにのって分けてくれる人もいれば、デスクにやってきては甘いドライフルーツをくれる人もいます。複雑に加工されたものではなく、自然のものをそのままおいしそうに食べるのがみも出ません。先日、横浜の中華街を初めて訪れたアフリカ人の研修生がすごくおいしい木の実を道端で勧められ、おいしかったので買ってきたと言ったのです。中華街の道端で木の実に甘栗でした。やっぱり自然のものです。

「マイナイフ」を持参するほど彼らは果物をたたくさん食べるのです。出張に行くカバンのほかに、リュックを背負っていた男性がいました。その中身はりんごやオレンジ、バナナなどの果物だったのです。「果物は全国のスーパーで買えます」という説明はしていないので無理もありません。毎日食べていて切ら

ゆで卵やバナナをおやつとしてほお張っていたおばあちゃんたちも果物や木の実をおいしそうに食べるとも場所がかわっても食べなれたおやつは変わらない時間です。(福岡市出身、JICA筑波国際センター・クリニック コーディネーター)